



エコシン

一般社団法人長野県環境保全協会

No.206
2020/2/25
Less CO₂ !

令和初のカレンダープレゼント会が6支部で開催されました

年末恒例のカレンダー・手帳プレゼント会は今回で22回目となり、6支部で開催されました。北信支部は会場が変更となり長野市生涯学習センターで、上小支部はJR上田駅で、中信支部は信毎メディアガーデンでそれぞれ実施しました。諏訪・伊那支部は、八十二銀行の支店と、諏訪信用金庫・アルプス中央信用金庫の各本支店で、飯田支部は飯田市役所で開催しました。

プレゼントの総数は、カレンダー17,437部、手帳2,495冊で前年を上回る数量でした(右下表)。

北信支部

北信支部のカレンダープレゼント会は、12月27日(金)に開催しました。今回は会場を長野市生涯学習センター4階学習室に変更したため、会場設営やお客様への周知、導線の確保など新たな課題を抱えながらの準備となりました。



時雨模様となった当日朝の天候もありお客様の反響も心配でしたが、午前10時には数十人の行列が出来るという例年通りの光景にほっとするのも束の間、行列をさばきながら臨機応変に会場配置を組み替えるというあわただしい準備となりました。開始の12時から13時半の終了まで、途切れることなく並んだ延べ1,200名の参加

者にカレンダー・手帳のほとんどを配り終えました。

今年はカレンダーが4,568部と昨年を下回ったものの、手帳が801部と昨年より200部ほど多く集まり、手帳を希望される方すべてにお渡しすることができました。

回収から整理、当日の配布まで、本部事務局をはじめ会員社、会員、ボランティアの皆様の献身的なご協力により、新しい会場でトラブルなく終了することができました。改めて御礼申し上げます。

(北信支部 小古井雅幸 信越放送(株))

令和元年 支部別頒布数		
支部	カレンダー	手帳
北信	4,568	801
上小	2,350	200
中信	5,129	683
諏訪	2,005	413
伊那	1,440	150
飯田	1,945	248
合計	17,437	2,495
前年	17,345	2,268
比較	92	227

Eco
Plaza



環境保全活動への方針・取組み

神稲建設(株) 代表取締役社長 福澤栄夫



弊社の環境方針として「建設事業活動において、地球資源が有限であることを認識し、環境保全に配慮した事業活動を行う」を掲げ、環境負荷の低減と汚染の予防、環境法令順守、健康経営の推進、継続的改善、積極的な地域社会との連携、以上5項目を重点に取り組んでいます。

次に弊社エコ活動として、環境マネジメントシステム認証登録、育有林の整備による長野県ふるさとの森林づくり賞受賞、長野県産業廃棄物3R実践協定締結、長野県建築物省エネ改修サポート事業者認定、そして第一期長野県SDGs推進企業として登録され、本店・支店、全部門において環境保全活動を実践しております。

上小支部

今回で第 16 回目のカレンダー・手帳プレゼント会が上田駅のお城口前会場で開催されました。今年は昨年と同じく、天候が良く平年に比

べ気温が高い中で実施されました。

集まったカレンダーは約 1,500 枚、手帳は約 200 冊、日めくりと一枚もの約 850 部が提供され、午前中は 20 名のスタッフにより汗をかきながら巻き戻し・仕分け作業を実施。午後の配布は 18 名のスタッフで対応、総勢 24 名の皆様に応援していただきました。

上田駅前会場の準備を始める頃には大勢の皆さんが列をつくり待っており、整理券の配布数は昨年同様の約 300 枚で、配布中には「プレゼント会を楽しみにしていた」等の声もありました。

プレゼント方法は 20 人を 1 グループとして 3 分間の選択時間を設け、ローテーションで実施。寒空の下で白熱したプレゼント会となりました。また、駅前で行っていたこともあり通行人も興味を示しておりました。

多くのスタッフの協力により、けが人等もなく無事終了することができました。プレゼント会が毎年の恒例イベントとして、定着し周知されていることを改めて認識しました。

(上小支部 宮嶋文男 長野計器(株))

中信支部

中信支部では 12 月 26 日 (木) に第 20 回「カレンダープレゼント会」を実施しました。今年も昨年に引き続き「信毎メ

ディアガーデン」での開催となりました。

会員と市民の皆さんから提供いただいたカレンダーと手帳は今年も 5,000 枚を超え、10 時からの整理券を求めて朝早くから約 120 名、延べ人数では約 400 名の市民の皆さんに会場いただきました。11 時の第 1 回目の配布ではテーブルいっぱいを用意した数多くのカレンダーがあつという間になくなり、市民の皆さんのパワーとこのプレゼント会を待ち望まれていた気持ちが伝わってきました。全部で 13 回配布を行い、どの回も持ちきれないほど両手に抱えて会場を後にする光景が見られ、ご自宅で使用される他にも近所や施設へ配ったりする方も多く、少しでも無駄にせず物大切にこの機会にさらに高めていただければと感じました。

今回も会員企業をはじめとしたボランティアの方々のご協力の下、大きな混乱もなく無事開催することができました。カレンダー類を提供いただいた会員の皆様や運営にご協力いただきました皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

(中信支部 宮坂 学 キッセイ薬品工業(株))

〔諏訪支部〕 気候変動セミナー「気候変動の最新状況とこれから」を開催しました

気候変動はもはや気候危機であると認識したほうがよいと思われる気象現象が相次いでいます。

日本を除く世界の数多くの国々・自治体が「気候非常事態」を宣言していましたが、12 月 4 日に白馬村、翌々日の 6 日には長野県が宣言を出すなど、日本でもやっと動きが出てきました。

「できることからやる」ではなく「やるべきことをすぐやる」ことが必要になってきた状況であり、協会発足当時の「地球温暖化を防ごう」からの大きな状況変化を認識し、気候変動についての最新状況を専門家から聞き、企業は何をなすべきか考える機会にしようとして気候変動セミナー「気候変動の最新状況とこれから」を企画しました。



講師は、気候変動と SDGs に関して国際的に活躍されている地球環境戦略研究機関 (IGES) 上席研究員の藤野純一さんです。

11 月 29 日、茅野駅隣りのマリオローヤル会館を会場に、会員および一般市民の方々 25 名が参加、折しも

この日は COP25 を前に世界中で Global Climate Strike が行われ、それに呼応するタイミングでの開催となりました。

藤野さんご自身の経験に基づくグローバルかつローカルな視点からの話に引き込まれるとともに、1.5℃目標達成は、今すぐ取り組めば間に合うこと、ただし思い切った取り組みが必要であることがよくわかりました。

(諏訪支部 平島安人 セイコーエプソン(株))

❖新春特集❖

野菜と地球温暖化〈後編〉トマト・セルリー

新年号「〈前編〉レタス」に続き、昨秋、長野県野菜花き試験場で伺ったお話をまとめました。



トマト

トマトは高温になると、直射日光があたった部分が高温になり、黄色や緑色になってしまいます(写真A)。また、受粉しなければ実がなりません。花粉の稔性(受精する力)が落ちて、実がつきにくくなります。「尻腐れ」(写真→)と、トマトの先端部分が腐ったように黒くなる生理障害も起こってしまいます。



露地栽培が可能な加工用トマトと異なり、生食用トマトは、雨で皮が破れてしまうため、ハウスで栽培しますが、ハウス内の温度は、外気の温度より高くなります。そこで、日光を3~4割カットする遮光資材をハウスの天井に取り付けて、その効果を試験しました。涼しくはなりましたが、光合成に必要な光もカットされてしまい、トマトの収量が減る、という問題が出てしまいました。

現在は、光を遮らずに温度を下げるため、**細霧冷房(ミスト)**で温度を下げる試験をしています。最近では、マラソンや高速道路のサービスエリアなどにも導入されている細霧冷房は、水が液体から気体になるときに周りから熱を奪って涼しくなる気化熱の原理を利用しています。トマトが濡れない小さな粒の霧(ドライミスト)で、この細霧冷房の有無により収量と品質にどう差が出るか調査をしています。



セルリー 長野県は生産日本一!
(セロリ)

特に夏場(7~8月)の生産は原村だけで全国の90%を占めています。

セルリーは高温になると、葉先が黄色っぽくなります。葉先の青さが鮮度の目安とされるため、品質低下により等級が下がってしまいます。



以前の試験で、**遮光資材**を収穫の直前に覆うと効果があることがわかりましたが、広大な畑への導入は現実的ではありませんでした。セルリーは新品種の開発にはレタスなどに比べて時間を要します。他により対策技術がないか、検討を続けています。

緩和と適応

これまでご紹介してきたように、野菜花き試験場では**適応策**を主体に様々な試験を行っています。**緩和策**としては、施設の効率的な「省電力」や燃費のよい農業機械の使用、また、化学肥料を作るにもエネルギーを使うので、化学肥料を少なくできる「緑肥」などの技術開発が挙げられます。



10月の一般公開デーで目にした「レタスの花」。キク科のレタスはタンポポのように綿毛になっていましたが、種をとるため、レタスの中の芯が伸びるように、球の葉を剥いたのだそうです。レタスの野生種は球にはならないなど、素人にもわかりやすく丁寧に説明下さった育種部長・小澤智美さん、本当にありがとうございました。



長野県野菜花き試験場(塩尻)
標高750m ほ場面積11.0ha ガラス室等97棟

❖写真(外観・レタスの花以外)は長野県野菜花き試験場にご提供いただきました。

〔佐久支部〕「自然エネルギーハンドブック」を作成しました



佐久支部は、自然エネルギーの普及および自然エネルギーを活用した持続可能な地域づくりに向けて活動している自然エネルギー佐久地域協議会と連携を図っています。この度、当該協議会の「自然エネルギーハンドブック」の全面改訂に協力しました。

このハンドブックは、2012年に作成し2015年にリメイクしています。今回の全面改訂では、本ハンドブックを各種イベントや小学校へ

の出前授業で有効に活用するために A4 サイズの 16 頁にしました。(左図は改訂版表紙)

内容も佐久地域の小学校高学年の児童を対象に、地球温暖化にテーマを絞り、温暖化の現状や原因、対応の方法、自然エネルギーの活用、家庭でできること、佐久地域が太陽光・太陽熱利用に適した土地柄であることについて分かりやすくまとめました。地球温暖化がもたらす異常現象への対策は待たなしの状況にあります。私達はこのハンドブックを活用してこれからも地域の方々と一緒に地球環境保全に取り組んでいきます。(佐久支部 小野 要 鈴与マタイ(株))

住宅の省エネ改修支援セミナーが開催されました

当協会も共催した「住宅の省エネ改修支援セミナー」(全4回)のうち長野会場のセミナーが、12月21日(土)メルパルク長野で開催されました。講師の東北芸術工科大学の竹内正義教授から、「CO₂排出量の80%削減は可能か」という問いかけからセミナーが始まりました。長野県が「気候非常事態宣言」とともに、2050年にはCO₂の排出を実質ゼロ(カーボンニュートラル)にする宣言を行ったばかりで関心も高く、出席者から様々な発言がありました。



講師からは、人口減少を踏まえることや地域のごとは地域で回す(経済は小さく回し、地域にお

金を残す)必要があること、再生可能エネルギーが80%に達すればCO₂排出量の80%削減は可能であるとの話がありました。

また、日本のエネルギー全体のうち建物で使われるエネルギーは34%で、これをゼロにすれば1/3の削減が可能であること。2050年にCO₂の排出をゼロにするには、30年以上持つ住宅も当然CO₂排出ゼロにすべきで、新築住宅は

2020年からカーボンニュートラルハウスとする必要があること。断熱ができれば今の技術で達成可能であり、屋根や壁の断熱材を厚くすることや太陽光の利用などが紹介されました。

(県センター事務局長 中山哲徳)

新会員紹介

北信支部 一般会員(非営利団体)
(一財)あんしん財団長野支局

会員数 (2020年1月31日)

*特別会員 92名 *一般会員 428名
*賛助会員 201名 *総会員数 **721名**

編集後記

半期の活動を総括する理事会と支部長会議が2月26日に開催されます。内容は3月号でお伝えします。

信州エコ大賞の応募を受付中です。皆様からの推薦をお待ちしています。

行事・イベント情報

- ▼3/11(水)支部事務局担当者会議
- ▼3/20(祝)SBCこどもフェスタ2020

■発行元

〒380-0835 長野市新田町 1513-2

□一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL.(026)237-6620 FAX (026)238-9780
E-mail:nace@janis.or.jp http://nace.main.jp/

□長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6625 FAX (026)238-9780
E-mail:nccca@dia.janis.or.jp http://www.dia.janis.or.jp/~nccca/

□長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL.(026)237-6681 FAX (026)237-6690
E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp
http://www.eco-mame.net/